河北新報　第２朝刊　平成２２年（2010年）９月２８日（火曜日）

©河北新報社 2010

NIE特集

Newspaper In Education

越河小

学校名　白石市立越河小学校
所在地　白石市越河五山下44
電　話　0224（28）2008
校　長　紺野　寿雄
児　童　72人

御柱祭の秘密を探れ！

火の神の怒り鎮めよ

知り隊

白石市越河地区で今年の夏、7年に1度の「御柱祭」が行われました。このお祭りは、越河に昔から伝わる伝統のお祭りです。前回開催時、まだ小さかったぼくたちは、その様子をほとんど覚えていません。そこで、越河の御柱祭はいつ始まり、どんな願いで、どんなことをするのか調べてみることにしました。

心一つに大木を引く

御柱祭の第1回開催は明治5（1872）年です。以来、全国的に有名な長野県の諏訪大社の御柱祭と同じ寅年と申年（数え年で7年に1度）に行われます。

今年は24回目。資料を調べても分からないことがあったので、越河・諏訪神社の宮司・高野幸雄さんに、詳しくお話をうかがうことにしました。

越河の諏訪神社は、長野・諏訪大社から神様を分けていただいた神社ということです。「御柱の奉納は、防火・鎮火の祈願のためです。昔から、火の神を怒らせて火事にならないように火を大切にした」と高野さんは説明してくださいました。

御柱の前に立つ取材陣

御神木である御柱は、長さ7・5㍍、周囲1・6㍍のスギの木で、4月に山から切り出して乾燥させておきます。それでも重さは10㌧以上あるそうです。

その大木を7月24日の山出し祭で、山から下ろしました。次の日の里曳き祭では、町の中を100人以上で引いて歩き、最後に、神社前の約100㍍の急坂を引き上げて境内に立てました。長野の御柱は坂を下るので、坂を上る越河とは、そこが大きく違います。

ぼくたちは、どうしてそんなに太くて長い木を引くのかと疑問に思いました。「それは氏子のみんなが力を合わせ、心を一つにして大木を引くことを誇りに思っているからだよ」とお話ししてくださいました。

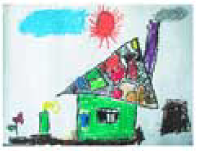
宮司の高野さんに取材

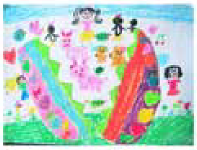
◇　◇

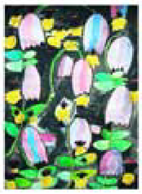
ぼくたちも、越河に生まれ、育ったことを誇りに思い、大人になったら、御柱を運ぶ中心になりたいと思いました。これからも御柱祭の思いや願いを大切に、ずっと続くお祭りであってほしいと願っています。

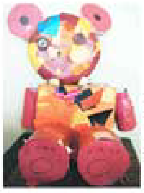
文・安藤瑞基、大浪蒼貴、後藤彩、佐藤大亮、高橋奏子、高橋未来、手塚博也、八島諒、佐久間ふたば（6年）

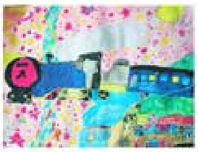
うきうきキャンバス

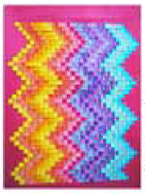

ぼくのすみたいおうち
1年・安藤右柳


ふしぎなたまごをわってみると
2年・石川はるか


ホタルブクロの花
3年・大槻歩未


箱のくまさん
4年・佐久間萌夏


銀河鉄道の夜
5年・石川友佑


三原色のグラデーション
6年・佐久間ふたば

教え隊　こいのぼり運動会

夢や目標 大空を泳ぐ

5月に開かれた、こいのぼり運動会

私たち越河小の春の運動会は、毎年たくさんのこいのぼりが空を泳ぎます。1年生から6年生までが一人一人の夢や目標を書いて作った紙のこいのぼりが大空を泳ぎます。今年のこいのぼり運動会は5月に開かれました。

昼食の前には、地域の方々から教えていただいた越河小唄という踊りも踊りました。唄と踊りを通しての地域の方々との交流です。また、全校が紅白に分かれて対抗リレーを行いました。そのほか団体競技でも、みんなで力を合わせて頑張りました。今年は、4年ぶりに紅組が勝ちました。みんなで力を合わせて作り上げる、とても楽しい運動会です。

文・制野亜美（5年）

編集後記

諏訪神社の御柱祭について初めて調べたのは、5年生の3月でした。調べたことで、さらに疑問が出てきたので6年生の7月にもう一度調べることにしました。

調べてみると、たった数カ月間で変わったことがいくつかありました。なかでも、御柱を立てる位置が以前よりも低い場所になっていたことに驚きました。本殿まで上る石段が老朽化してしまったことが原因でした。5年生での取材は雪が積もっている時期に、6年生での取材は暑い時期に行ったのでとても大変でした。

この記事を通して越河小や越河地域のことを広く知ってもらえるとうれしいです。

△編集委員▽安藤瑞基、大浪蒼貴、片平愛佳、後藤彩、佐久間ふたば、佐藤大亮、高橋奏子、高橋未来、手塚博也、八島諒（6年）、鈴木未希、制野亜美（5年）

題字デザイン　丸山瑞穂（6年）

△指導教諭▽今秀明、岸依久子

言い隊

■美しい越河守りたい■

越河小では年に1度、「やまびこクリーン作戦」をしています。この活動は、児童会本部委員会が「きれいな学校、きれいな越河」を合言葉に計画した児童会行事です。登校グループ（毎朝、いっしょに登校する異学年のグループ）ごとに通学路のごみを拾います。毎年、一番多いごみは、たばこの吸いがらです。大人のごみのポイ捨てが多いことがわかりました。

私は、この活動をこれからもずっと続けてほしいと思っています。きれいになった道路を歩くと、とても気持ちがいいからです。ごみを捨てる大人が減り、いつまでもきれいなふるさと越河を守っていきたいです。

（6年・片平愛佳）

■食べ物 大切にしたい■

私たちは、社会の学習で食料生産について学習しました。日本の食料自給率がとても低く、農業で働く人がだんだん減ってきていることや、外国からの安い輸入品が増えていることを知りました。最近、日本では口蹄疫や鳥インフルエンザの問題など、いろいろな病気で、食べられることなく殺処分され、埋められていく家畜が話題になりました。

日本は、豊かになるかわりにたくさんの食べ物を捨てています。私は「買うのは、食べられる分だけ」「できるだけ好き嫌いをしない」など自分ができる小さな努力をしたいです。そして、おいしい野菜を作っている祖父母に感謝したいと思います。

（5年・鈴木未希）

10月は13日（水）、26日（火）の掲載になります。

これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。